

最終1月 東大本番レベル模試 英語採点基準

記述問題の採点は問われた内容にほぼ正しく答えているかどうかで判断することを原則とし、表記上の些細なミス（例えば、iの点やtの棒の脱落など）は減点しない。

配点表

大問	小問	配点	小問数	小計	大問ごと
1	A 要約	10	1	10	20
	B(ア) 記号	2	4	8	
	B(イ) 単語記入	2	1	2	
2	A 英作	4, 8	2	12	22
	B 英作	10	1	10	
3	A 記号	2	5	10	30
	B 記号	2	5	10	
	C 記号	2	5	10	
4	A 記号 (完答)	3	4	12	24
	B(ア) 和訳	4	1	4	
	B(イ) 和訳	4	1	4	
	B(ウ) 和訳	4	1	4	
5	(A) 和訳	3	1	3	24
	(B) 和訳	3	1	3	
	(C)(ア) 記号	2	5	10	
	(イ) 記号	2	1	2	
	(ウ) 記号 (完答)	2	1	2	
	(エ) 記号	2	1	2	
	(オ) 記号	2	1	2	
合計					120

【1】－A (10点満点)

【例1】

不可能なことの研究が予想もしなかった科学の領域を切り開いてきた。我々は不可能を無視して危険を招くこともあるが、不可能なことの研究が新たな視点を切り開き、科学者が不可能を再定義するのを何度も見てきた。(99字)

【例2】

不可能とされていることの研究が科学の新発見につながったり、後に可能と判明することがある。不可能と切り捨てたことに脅かされることもある。ものの見方は時代によって変わり、不可能は再定義されるのである。(98字)

<p>必須項目 (10点)</p>	<p>① 「不可能なことの真面目な研究が、豊かな、全く予想もしなかった<b>科学</b>の領域をしばしば切り開いてきた」(4点)                  Ironically, the serious study of <b>the impossible</b> has frequently opened up rich and entirely unexpected domains of <b>science</b>.</p> <p>▶ 「<b>不可能なこと</b>」(<b>the impossible</b>)に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。                  ▶ 「<b>科学</b>」(<b>science</b>)に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。                  × 「サイエンス/物理/化学/工学/技術」は「科学」と認めない。</p> <p>② 「我々人間は<b>危険</b>を承知で不可能なことを無視する」(2点)                  We ignore the impossible at our <b>peril</b>.</p> <p>▶ 「<b>危険</b>」(<b>peril</b>)に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。                  × 「不安/恐怖」は「危険」と認めない。</p> <p>③ 「不可能なことの研究がまったく<b>新たな視点</b>を切り開き、科学者に『不可能』が意味することを<b>再定義</b>させるのを、我々は何度も繰り返し目にしている」(4点)                  Time and again we see that the study of the impossible has opened up entirely <b>new perspectives</b>, pushing the boundaries of physics and chemistry and forcing scientists to <b>redefine</b> what they mean by “impossible.”</p> <p>▶ 「<b>新たな視点</b>」(<b>new perspectives</b>)に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。                  × perspectivesに「遠近法/透視(図)/俯瞰(図)/全体像」は不可。                  ▶ 「<b>再定義</b>[する]」(<b>redefine</b>)に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。                  × 「洗練/刷新/変革/革命/再考/再確認」は「再定義」と認めない。</p>
-----------------------	---

- ① 内容の不足は上記配分で減点。内容の順序は問わない。
- ② その他、誤訳、不適切な表現は程度に応じて1～2点減点。
- ③ 字数制限を満たさないものは0点。

【1】－B (イ) (2点満点)

reasons 以外不可。綴りの誤りは1字でも不可。

【2】－A (12点満点) (1) 4点 (2) 8点

(1)

【例1】 Offering the same to everyone seems fair, but it's actually not. (11語)

(すべての人に同じものを提供することは公平に見えるが、実際はそうではない)

【例2】 Giving exactly the same opportunity is one way to treat people "equally" but not necessarily "fairly." (16語) (まったく同じ機会を与えることは人々を「平等に」扱う1つの方法であるが、必ずしも「公平に」ではない)

【例3】 It seems that equality can be realized by offering the same opportunity. But it sometimes results in inequality. (18語) (同じ機会を提供することで平等が実現されるように見える。しかし、それは不平等という結果を生むこともある)

【例4】 In the left picture, nobody is treated unequally, but the smallest boy isn't getting a chance to watch the game. (20語) (左の絵では、誰も不平等に扱われているわけではないが、一番背の低い少年は試合を見る機会を得ていない)

(2)

【例1】 The concept of "equality of outcome" could be better in terms of trying to reduce the gap between the privileged and the disadvantaged. However, isn't it more important to try to remove the barrier itself? In this picture, it's the wooden fence. If there were no barrier, everybody would have free access to the necessary resources without requiring any support. (60語)

(「結果の平等」という考え方は、特権を持っている人と不利な立場にある人の間の溝を埋めようとする点ではより良いものだろう。しかし、障壁そのものを取り除こうとすることがもっと重要なのではないか？この絵では、それが木の柵(さく)である。もし障壁がなければ、誰もがいかなる支援も必要とせずに必要な資源を自由に入手することができるだろう)

【例2】 It is important to give different support to different people according to their abilities and conditions. However, if the equality of outcome is always guaranteed in society, people may feel that their own efforts are not rewarded and will stop working hard. This will cause social stagnation. So, when a society gives support to people, careful attention has to be paid in order not to discourage their diligence. (68語)

(能力や条件に応じて様々な人に様々な支援をすることが重要である。しかし、結果の平等が社会において常に保証されれば、おそらく人々は自分自身の努力が報われないと感じて一生懸命働くことをやめるだろう。これは社会の停滞を引き起こす。だから、社会が人々に支援をする際は、彼らの勤勉さをくじくことがないように慎重に注意を払わなければならない)

【例3】 The problem is that few people are happy to share what they have. You may think the tallest person in the picture is sure to give his box to someone else, because he can see the game without it. However, what if he wants to catch a home run ball? Many people tend not to give up easily what they have gained in the first place. (66語)

(問題は、自分が持っているものを喜んで分かち合う人が少ないということである。絵の中の一番背が高い人はきっと他の人に自分の箱を譲ると思うかもしれない。なぜなら、彼は箱がなくても試合を見ることができるからである。しかし、彼がホームランボールをキャッチしたいとすればどうだろうか。そもそも、多くの人は自分が手に入れたものを簡単にはあきらめない傾向がある)

1. 文法・語法・綴りの軽微な誤りは**1点減点**、重大な誤りは**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。

2. 語数制限 (1) 10~20語, (2) 50~70語) を満たさないものは**0点**。

3. 内容面で以下のポイントを満たさないものは、それぞれ該当の点数を減点。

(1)

**ポイント** 「機会の平等では不十分である」 (4点)

\* 「機会の平等では不十分である」に相当するものがないものは**4点減点**。

\* 内容が絵と矛盾するものは**4点減点**。

(2)

**ポイント** 「平等の複雑さ」 (『平等とは結果の平等だ』という単純な問題ではない) (8点)

\* 「平等の複雑さ」に触れず「結果の平等」についてのみ論じたものは**4点減点**。

\* 平等について論旨が一貫していないと採点者が判断できるものは**4点減点**。

【2】－B (10点満点)

【例1】The longest wooden bridge in Japan was going to disappear with the width of the river being reduced. I felt extremely sad about it as it seemed like I would lose a source of my pride.

(日本で一番長い木製の橋が消えるとともに川幅が狭くなろうとしていた。私は自分の誇りの源を失うような気がして、そのことについてひどく悲しく感じた)

【例2】The best wooden bridge in Japan, which gave me a sense of pride, would be gone, and also the river would become narrower. All this caused me pain and a sense of loss.

(誇らしい気持ちを与えてくれた日本で最高の木橋がなくなり、加えて川幅も狭くなってしまふ。このことすべてが私に痛みと喪失感をもたらした)

【例3】That the greatest wooden bridge in Japan would be removed and that the river would become narrower deprived me of what I was proud of. Nothing was more heartbreaking to me.

(日本で一番立派な木橋が取り除かれて川の幅が狭くなることは、私が誇りにしているものを私から奪った。これほど私の心を打ち砕くものは何もなかった)

1. 文法・語法・綴りの軽微な誤りは**1点減点**、重大な誤りは**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。

2. 次の区分を目安に得点を配分する。

- ①「日本一の木橋がなくなり」(2点)
- ②「川幅が狭くなって」(2点)
- ③「自分の誇りがなくなる」(2点)
- ④「ことが、～であったのだ」(2点)
- ⑤「身を切られる切なさ」(2点)

【4】－B（ア）（4点満点）

<問題部分>

The reason I had trained to be an English teacher in the first place was my parents' insistence that I graduate from college with a trade, "poet" falling short of the mark in their eyes.

<例 1>

そもそも私が英語の教師の資格を取った理由は、大学を出て手に職がついていないのはいけないと両親に言われたからで、「詩人」だなどというのは彼らには物足りなかったわけだ。

<例 2>

私が国語教師になる教育を受けた第一の理由は、大学を卒業したらまともな職業に就くよう私の両親が強く求めたからであって、彼らには「詩人」など落ちこぼれに見えたのだ。

区分	配点	具体事例
The reason I had trained to be an English teacher in the first place was ~ 私が英語の教師になるよう訓練を受けた理由はまず第一に～だった	1点	×The reason(S) was(V) ~ のSV関係がわかっていないものは不可。 ×The reason と I had の間に関係副詞の省略があることがわかっていないものは不可。
my parents' insistence that ... …という両親の強い要求	1点	×that が同格の名詞節を導く接続詞だとわかっていないものはこの区分で減点。
I graduate from college with a trade 私が手に職を持って大学を卒業する	1点	×trade に「取引/交換条件/トレード」は不可。
"poet" falling short of the mark in their eyes そして「詩人」は彼らの目には基準に達していなかった	1点	×独立分詞構文だとわかっていないものは不可。 ×poet の訳抜けは不可。

- ① 上記の区分に分けて配点し、区分内に1か所でも誤りがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【4】－B（イ）（4点満点）

<問題部分>

That I can say so without irony probably owes at least something to the fortunate working conditions of this past year.

<例1>

皮肉でなくそう言えるのはおそらく、少なくともある部分、この1年間の恵まれた職場環境のおかげである。

<例2>

皮肉抜きにそう言えるのはたぶん、少なくともある程度は、ここ1年の幸運な職場環境のおかげだろう。

区分	配点	具体事例
That I can say so without irony 私が皮肉なしでそう言えることは	1点	×That が名詞節を導く接続詞で That 節がこの文の主語だとわかっていないものはこの区分で減点。 ×without irony を say 以外にかけているものは不可。
probably owes (at least something) to ～ おそらく (少なくとも幾分か) については～ のおかげである	1点	×probably の訳抜けは不可。 ×owe O to ～ (O を～に負っている/O については～のおかげである」がわかっていないものは不可。
at least something 少なくとも幾分か	1点	×at least の訳抜けは不可。
the fortunate working conditions of this past year この年の幸運な労働条件	1点	×fortunate の訳抜けは不可。

- ① 上記の区分に分けて配点し、区分内に1か所でも誤りがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【4】－B（ウ）（4点満点）

<問題部分>

I take this as a compliment and smile accordingly, though on reflection I wonder if she is simply trying to agree that I am old.

<例1>

私はそれを社交辞令と受け取って笑顔で応じるのだが、しかしよく考えてみると、彼女はただ私に同意して、年だ、と言おうとしているのかもしれない。

<例2>

私はこれをお世辞と受け取ってほほ笑むが、考え直すと、彼女は単に私が年寄りだということに同意しようとしているだけではないだろうか。

区分	配点	具体事例
I take this as a compliment and smile accordingly 私はこれをお世辞と受け取り、それに応じて微笑む	1点	×accordingly の訳抜けは不可。
though on reflection とはいえ、考え直してみると	1点	×on reflection に「反射的に」は不可。
I wonder if ... …かどうか疑問に思う	1点	
she is simply trying to agree that I am old 彼女が単純に私が年をとっているということに同意しようとしている	1点	×old に「古い/30歳」は不可。

- ① 上記の区分に分けて配点し、区分内に1か所でも誤りがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【5】-(A) (3点満点)

<問題>

下線部 (A) を和訳せよ。

**We'll get you your own place.**

<例 1> 自分の家を借りてやろう。

<例 2> お前のアパートを探してやろう。

区分	配点	具体事例
We'll get you ~. おまえに~を借りてやろう	2点	○get you の訳は「与えてやる／見つけてやる／借りてやる／探してやる」など
your own place 住むところ	1点	○「家／アパート／部屋」など、「住むところ」というニュアンスがあればよい。 ×place に「場所」は不可。(具体的にという指示に反する)

【5】-(B) (3点満点)

<問題>

下線部 (B) を和訳せよ。

**Where is she from, again?**

<例 1> で、どこの人だって?

<例 2> 彼女、出身はどこと言ったっけ?

区分	配点	具体事例
Where is she from? 彼女はどこの出身なの?	2点	×she をユキ以外ととっているものは不可。
again 繰り返しになるけど／もう一度聞くけど／もう一度言って	1点	×again の直訳 (再び／もう一度) だけで、聞き直しのニュアンスのないものは不可。